

# 柳田雑記 (18) 花園君へ

貴君の意見に賛成です。私は社会主義革命にこだわるべきでないと思います。社会主義革命は、何故か内ゲバがおこなわれます。ブント、中核派、青解派の内ゲバが内包されています。関西の中核派はブントに接近して合流しそうですが、清水丈夫の中核派はそうはいかないでしょう。その点は悪名高いベルンシュタインの改良主義でもいいと思います。レーニンは激しく非難していますが、第一次世界大戦にさいして

## 寄稿 旧著紹介

▼アレクサンドル・ヤコブレフ著、井上幸義訳『マルクス主義の崩壊』1994年2月刊、四六判、三四頁・サイマル出版会

図書新聞  
3346号  
2018  
4/7

## 社会主義は空想である

資本主義の基盤で、未知の歴史への前進を図るべき

花園紀男



ヤコブレフはゴルバチョフ前・直後の段落と合わせて引く。連共産書記長、シュワルツェ（外相）と三人組でペレストロイカ（再建）を進め、グラスノスチ（情報公開）を進め、スターリン主義の犯罪を告発し、新思考外交を進めて冷戦を終結させ、東欧、ソ連邦の民主化を軟着陸させた。ペレストロイカの過程で彼はレーニン主義、マルクス主義とスターリン主義の悪の根源があったと指摘するようになった。それが本になったのが本書である。筆者がこの旧著を紹介する意図は、この本の初めのほうの、1つの段落を紹介したいためである。その部分の直

エヴィキが、資本主義の発展の中で新たに生じた現象にもなつて一九世紀末に起きた、マルクス主義の学説に対する科学的批判を問題にしないのは、どうやら偶然ではな

「最初の二撃の後では後戻りはきかない。ポリシエヴィキは、トロツキーの後について、永久革命の可能性と必要

性、つまりブルジョア民主主義革命に対する暴力的後押し

の可能性と必要性を信じ、またロシアにおけるプロレタリアの勝利は現実のものとなる

という結論に至ると、一九〇五年一月に始まった国内戦争では、すでに血をもって自分たちの信念を不動のものとしたのだ。

ロシアのマルクス主義者たちや、なんといってもポリシエ

エヴィキが、資本主義の発展の間、それが気が付かなかったマルクス、エンゲルス（共産党宣言）を見よ、レーニ

ンやロシアのポリシエヴィキの、自分たちの側の原因をえぐって、だがこの矛盾に気がついていなかった日本のお

おホケたち（我々）にはこのヤコブレフのきびげない指摘の理解こそこの本を読む第一の課題である。

「生産手段の私的所有を前提として、資本主義は発展し、ブルジョア階級とプロレタリア階級の階級闘争は激化していく、プロレタリア階級は勝利する。政治的に支配階級となったプロレタリア階級は生産手段を徐々に収奪してその私的所有を廃止し、社会化し、市場経済を廃止し、計画経済を成功させて、共産主義の千年王国がやってくる。」このマルクス主義の歴史哲学は、命題在体の前提であった生産手段の私的所有を命題の後半で廃止している。前提を破壊する廃止はしほならないのである。したがって、これは歴史哲学の重大かつ基本の誤

誤である。「その結果（ロシア革命70年の）歴史の自然な進化の歩みは、破壊され、ロシアの不幸へと転化していった。生産手段の私的所有の収奪、廃止は社会主義ではなかった。それは単に階級闘争による経済破壊の熾野原、荒廃であった。マルクス主義の歴史哲学と階級闘争のほかに階級協調を加えるべきである。社会主義は空想である」とを認めなければならない。

計画経済は、例えば、歯アラシ1つの生産と分配を考へても市場経済を超える計画経済は想像すらできないだろう。資本主義の基盤の上で、プロレタリア階級による民主的革命も改革もありうる。プロレタリア階級の利益の前進を図るべきである。暴力革命は否

定し、かつてローマが奴隷制の基盤で階級闘争と階級協調で奴隷制の改革を進めて歴史を農奴制の中世へと前進させたように、資本主義の基盤で、未知の歴史への前進を図るべきである。

(マルクス主義研究家)

自国政府の参戦に賛成したからです。自国政府の敗北は貫くべきです。要は改良のなかみです。プロレタリアートの生活向上が勝ちとればいいのです。それと戦争反対です。第2次大戦以降、帝国主義戦争はおこなわれていません。今後もないでしょう。アメリカは今も中東で戦争していますが、その大義はアメリカ国内で多数派とは言えません。

2018年4月26日 柳田 健